

竹藪焼けた

JJ1SXA/池

「回文」とは、始めから読んだ場合と終わりから読んだ場合とで文字や音節の出現する順番が変わらず、なおかつ、言語としてある程度意味が通る文字列のことで、言葉遊びの一種です、要は前から読んでも後から読んでも同じ文章のことだ。

古典的な、タケヤブヤケタ→「竹藪焼けた」は、誰でも知ってると思うが、色々幾つか列挙して見ます。

タイヤキヤイタ→「鯛焼き焼いた」

マサカサカサマ→「まさか逆さま」

タシカニカシタ→「確かに貸した」

カツラガラッカ→「鬘が落下」

スキノシルシノキス→「好きの印のキス」

ワタシマケマシタワ→「私負けましたわ」

ケダルキイチニチイキルダケ→「けだるき一日生きるだけ」

ルスニナニスル→「留守に何する」

ニンテンドウドンテンニ→「任天堂うどん店に」

キキクルカトカルクキキ→「危機来るかと、軽く聞き」

セクハラハクセ→「セクハラは、癖」

ツマテニウドンサゲサンドウニテマツ→「妻、手にうどん下げ、参道にて待つ」

ナイカデハクスリノリスクハデカイナ→「内科では薬のリスクはでかいな」

イマウンドウカイスシナシスイカウドンウマイ→「今運動会、寿司、梨、スイカ、うどん、美味しい」

いやはや長い文章もあるし、思わず笑えるものもある、お見事です、皆さん考えて作って見ましょう。

回文は言葉遊びの1種だが、言葉遊びにはこんなものもある、道楽三昧の学生が、電報で郷里の親にせがんだ、「カネオクレタノム→金送れ頼む」、父からの返電は、「タレガクレタノムナ→誰がくれた飲むな」だった、笑えます、今は、簡単に電話が掛けられるし、メールも即届くが、その昔は急用は電報だった、「カネオクレ、タノム」なら良かったのだが電報は一文字幾らだったので、(、)は省略したので、こんな誤解が起きた、「ダレガ…」が「タレガ…」になっている、(、)一文字省略だが、文脈でわかる、字数を減らす努力はあちこちに、電報は、電報局の女性オペレーターが有線で高速 CW で送・受信していたのだ。

言葉遊びにはこんなものもあります、「世の中は澄むと濁るの違いにて、福(フク)に徳(トク)あり、河豚(フグ)に毒(ドク)あり」、中々含蓄のある言葉です。